

# 「FD を推進するための活動補助事業」実績報告書

心理学部・室橋春光

## 1. 目的

新しい学習指導要領において、主体的・対話的で深い学び、すなわちアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善の重要性が謳われている。近年、大学における講義の困難さが指摘されているが、大学においても必要な方向性であると考えられる。およそ 20 名以上の講義においては、講師の一方的な講義では学生の関心は低下しがちになる。講義に対する受講生の関心を高め、より積極的な学習態度を形成することを目的として、双方向型授業支援装置を利用した授業を行い、受講生の講義への関心を高め学習を深めることが目標である。なお本学は従来より双方向型授業支援装置（Socratec 社製、反応キー 150 個分）を所有しているが、本装置を購入以来長年経過しており反応キー用水銀電池の多くが消耗している状態であった。そのため、反応キー 150 個分の水銀電池（1 反応キーにつき 2 個必要）を購入した。

## 2. 方法

講義中に、講義内容に関連する選択肢付きの質問を画面に 10～15 分に 1 回程度提示する。学生が画面の質問を見て、適切と思う選択肢番号を反応キー（当該装置）で押すと、パソコンに接続された受信装置を通して専用ソフトで処理され、即時に棒グラフで選択割合が図示される。学生は自分の選択は適切であったか、他の学生と比べてどうであったかを知ることができる。

## 3. 成果

反応キーを利用した講義における受講学生の感想からみると、講義中に提示される質問に対して、ボタンを押すことにより授業に参加しているという意識が強まること、他の学生の意見やその割合も即座に知ることができ参考になること、などがあげられていた（以下参照）。従って、本装置を用いることで、学生の学修をより一層促すことが可能であることが示されたといえる。

パソコンを使用している教員で双方向型授業支援装置への関心があれば、誰でも取り組むことができる。講義に本装置を導入することにより、学生の講義への参加意識を高めることが可能である。質問を授業項目ごとに作成し提示することで、学生の反応を確認しな

から説明のしかたを変えていくことができる。

-----  
「とてもおもしろかった。問題形式でやることで、より身に入りやすくなった。」「講義の途中で問いがあり、とても親しみやすい講義だった。」「授業中に自分の考えを示し、その解説をするような講義は初めてだったけれど、すごく分かりやすかった。」「確認カードでの授業はおもしろい。次の授業が楽しみ。」「ボタンを押す（全員参加型）の授業は、自分も授業に参加できるので、好きだ。これから楽しみながら学びたいと思った。」「反応カードによって、他の人の意見も分かるのでよかった。」「反応カードを始めて使ったけど、その場で答えてその場で集計できるから、とても良い機械だと思った。」「アンケートを集計することで、他の人の考えがわかるのが、いい。」「今回の授業は反応カードを通して使うという新しいスタイルだったが、なかなか学べた。」「自分の意見だけでなく、どのくらいの人がどれに投票しているかが一目でわかり良かった。」

#### 4. 課題

双方向型授業支援装置を単に利用すれば、効果が現れるというわけではない。このような装置を利用する上での課題は、適切な質問内容と選択肢をいかに作成するかにあると思われる。学生の疑問に対応した質問を作成しないと、学生の興味・関心、思考は深まらない。そのためには、学生のような様々な考え方や質問の受け取り方などをリアクションペーパーなどで把握しておく必要がある。講義内容に合わせて適切な質問のしかたを工夫するためには準備の時間を要するが、そのことは教員の学習指導能力の向上に寄与することになると思われる。

なお本装置（Socratec社製）の専用ソフトは、多様な利用のしかたを想定して、かなり複雑なつくりになっている。そのため操作が複雑で、場合によっては使用中にフリーズしたりすることもある。講義中にトラブルが多発すると、双方向型授業支援装置のメリットは減少してしまう。そのため、より安定した機能を有し利用しやすい他の機種に代えていくことが望まれる。